逐次刊行物
平 元年 4.29 成
国立婦人教育会館
婦人教育情報センター

本紙は女性による平和と平等を推進します

回覧 □□□□□□□

発行所
全国婦人新聞社
〒160本社東京都新宿区西新宿
3-7-28　宝幸西新宿ビル
電話　03(343)1846(代)
FAX　03(348)1890
振替口座　東京(5)172320

全国婦人新聞

ご購読料
1年　4,500円
（郵送料900円を含む）
現金・切手・振替で前納
月3回発行
10日・20日・30日

収穫たっぷり
春の那須荘
全国婦人新聞社

地域女性史の交流研究集会

各地で地域女性史づくりが活発に進められているが、地域女性史をつくるということが、地域の女性にとって、あるいは自治体にとってどういうことなのか。また、女性史を編むことから何を得、何を学ぶことができるのかを話りあおうと、3月4日、5日の2日間、東京都足立区婦人総合センター（松田季美子所長）で、『地域女性史交流研究集会＝地域女性史から見えてくるものは何か＝』が開かれた。全国から、地域女性史にかかわるサークル、団体の代表や研究者が約320人集まり、主催者側も驚くほど盛りあがりをみせた。

松田所長

女性史を編むことから、何を学ぶことができるかを語り合う

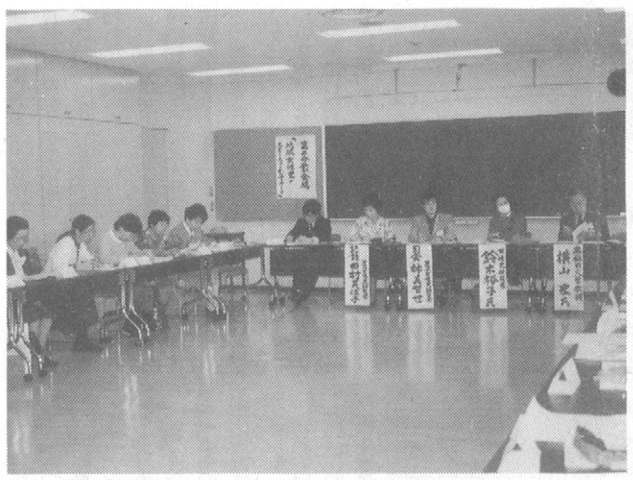
真実に迫る自己教育

東京都足立区の婦人総合センターで

全国から320人集う

司会
女性史研究家
鈴木裕子氏
早稲田大学教授
横山宏氏
女性史研究家
折井美耶子氏
別府大学教授
古庄ゆき子氏

シンポジウムで左から鈴木さん、横山さん、折井さん、古庄さん



分散会では、それぞれのもつ悩みを活発に出しあった

同交流研究集会は、足立区婦人総合センター開所記念行事として発刊することになった『葦笛のうた――足立・おんなの歴史』（著者・足立女性史研究会、編集・鈴木裕子、協力・足立区教育委員会、発行・ドメス出版）の完成記念に開かれたものだ。二日間にかけて、もろさわようこさん（女性史研究家）の記念講演、各地からの事例発表、分散会、シンポジウムと盛りだくさんの企画。

松田所長は開会の挨拶で、「『葦笛のうた――』は、足立女性史研究会（以下足立女研）が四年間かけて、二百名以上の方にインタビューをし、資料を探して裏付けを取るといった、気の遠くなる作業を重ねてきた賜物。そこには本にまとめ、二十一世紀の人たちに遺産として残したいという思いがあったから」と、歴史を掘り起こしまとめることの大変さを語り、「この集会を機にみんながネットワーク作りをしたらどうか」と呼びかけた。

足立女研代表の宮崎黎子さんは、「発刊予定日があり、何もかも時間切れといった感じ。出来上がってみて、あまりにもきれい事でまとめられていないかという意見があった。が、そこが自分達の限界だったのだろう。聞き書きをするほうの力がそれだけしかなったことだ。書くことは自分を、そして地域を見つめることだという初歩的なことが、やっと分かりかけてきたところ」と事例発表で吐露する。

聞き書きの難しさは、三つの分散会でも出された問題だ。相手の隠したがる部分にこそ本音があり、それを引き出すのは「自分の生き方、力量や視点が問われる」作業になり、それに伴うプライバシーの問題にどう対処していけばいいか、などが話しあわれた。第三分散会では、聞き書きのマニュアル化の必要性も出された。

また、地域女性史と一口に言っても著述主体はさまざま。個人、女性史研究グループ、婦人団体、行政機関など。

『葦笛のうた――』が区の事業として出版されたこと。他にも『夜明けの航跡――かながわ近代の女たち』（ドメス出版）が神奈川県立婦人総合センターかながわ女性史編集委員会編著であるように、自治体が女性史を編纂しはじめたことや『大分県史』『神奈川県史』にみられるように、自治体史に女性関係の項目が設定されるようになったこともあり、第二分散会では、女性史編纂と行政のかかわりが話の軸になった。

行政の中で編纂する女性史の限度、逆に経済的に保証される魅力、資料収集力の大きさなどがあげられた。

分散会を踏まえたシンポジウムでは――

『葦笛のうた』の編纂の指導と編集を担当した鈴木さん（司会）は、足立女研は最初から本を作るという目的があり、そこにはプラスとマイナスがあったという。マイナスは、短期間で本を完成させたことで、会員の中で基本的な話し合いが十分になされていなかったこと。プラスは経済的、場所、資料収集に行政の援助があり、やりたやすかったことといい、「行政と意見の食い違いもあったが、女性史の原点に違いはないはず」『世の流れが行政も加わった形での地域女性史作りに変わろうとしている。この過渡期に堅持しなければならないのは、地域女性史は一種の自己教育であるということ」だという。

かつて女性史はマイナーの分野で、アカデミズムから一歩下ったものであったが、いまやメジャーになったというのは古庄ゆき子さん（別府大学教授）。「一般に認められたことへの、堕落の危険性を感じる。書いたモノが売れる……歴史を作っていく女性が増えたのは喜ばしいが、売れるように書くというジャーナリズムや地域自治体への迎合はないか」と厳しい指摘をし、自分も『大分県史』の一部を担当しているが、そこには震えるほどの緊張感があるという。

折井美耶子さん（女性史研究家）も、「初期の女性史が持っていた毒が失われた観がある」という。例えば、もろさわさん、古庄さんは、〝地域プラス地方女性史〟というように〝地方〟にこだわっている。地方の反対側に、金、人材など常に収奪してきた中央があり、地方の怨念が収奪者の中央へと向けられてきた歴史がある。それが地域女性史というきれいごとにされ、怨念の部分が失われてきているというのだ。

また、聞き書きの難しさにもふれ、「体験者の言葉が歴史の真実ではない面もある。従来の歴史の手法を学んだうえで真実にせまることが大切」という。

最後に、横山宏さん（早稲田大学教授）は、それぞれに出された問題をまとめるようなかたちで、四つの点について述べた。

①聞き書きの基本は、相手の信頼を得るところから始まる。②いま、生きている限り行政とのかかわりを断ち切ることはできない。どう関係を結ぶのかの方が大切。一定の緊張関係を保ちながらいっしょにやることが理想。③地域女性史、自分史を作るのは、主体的に生きていくことへの自己変革をする学び。同時に、だれもが主体的に生きながら他者とよい人間関係を結べる地域づくりをすること。④女性史を学び、それを表現するのは本の出版というこだわりをすて、脚本に書いて芝居、紙芝居、人形劇、詩、歌など、自己表現を含めて、もっと表現を豊かにしていくことではないかという。

各地で出された女性史に見入る参加者たち

もろさわようこさん

記念講演＝もろさわようこ＝

「つくられた女から創る女へ」より

女は歴史を創り、歴史に作られてきた。人間は自由で権利も平等で生まれてきているのに、歴史の中で〝女はこうあるべき〟と自由をそがれ作られてきた。この社会に着せかけられた女の姿でなく、自由に、自己を燃焼し命を輝かせて生きたいと思う、いわば新しい女たちがいる。

自分を創り出す女とつくられた女の関係（女たちの二重構造）は、創ることのできる女たちは経済的にも社会的にも恵まれた層に多く、つくられた女として生きるのは社会の中では恵まれない場所にいる人たちが多い。

女とはこういうものだと嫁として、妻として、母として堪えて犠牲になった人たち――無知の純朴ゆえに、体制の中の最も被害者でありながら、平等の人間として生きようと新しい生き方をめざす人々にとっては、逆に加害者になっている。

奴隷の意識は主人と同じというが、隷属化された人は自分の目でみたり考えたりしない（主人＝体制＝官）。上の人が言うから、世間が言うから正しいと、自分が虐げられている相手の、つまり支配者の見方をすり込まれてしまった女をつくられた女という。

海外通信

ブラジル＝㉕　斉藤美代子

はっきり自己主張を

通用しない控え目の美徳

パラナ州にゴヨオレという小さな町がある。そこに住んでいるある日本人一世移民が、約三年前日本のある機関から莫大な資金を寄付として獲得した。この金をもとに基金が設立され、パラナ州における日本語教育及び日本語教師助成金に使用されることになった。昨年の九月、同地で教師研修学会を兼ねて将来の基金用途についての相談会があった。私は忙しいのであまりそういう会合には出席しないのだが、将来のこともあり、クリチバからバスで9時間かかるゴヨオレへ出かけて行った。

クリチバ、ロンドリーナ、マリンガ、カストロその他の地方から大勢集まったのだが、地方の日本語教師の視野のせまさというか、旧態依然たる意識にはびっくりした。以前、クリチバで行われた研修会（私が講師として日本語とポルトガル語文法対比を説明した）のときにも、びっくりし、〝これは大変だ〟と思ったものだが――。

彼らの考えは、いまだにブラジル生れの日系人に、日本の大和魂を植えつけようというのである。日本式に〝起立〟〝礼〟をさせたり、三世、四世が日本語を話さないのは、二世の親が日本語を話さないからだといい、六歳の女の子に鞭で机を叩いて作文を書かせたという。私は呆れて何もいえなかった。

この教師たちは、これからの日系人が、ブラジル人社会で活躍できるような人間に教育しなければ、というのがわからないのだ。

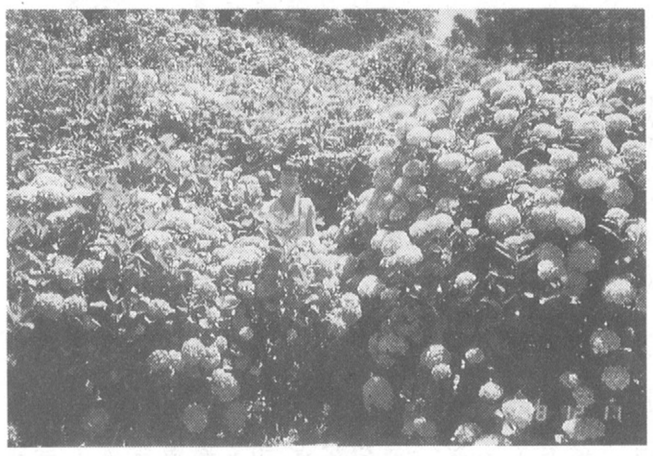
今までの日本人のあり方―自主性がなく、従順で控え目を美徳とする―は、ここでは通用しない（今では日本でもそうかもしれないが）。はっきり自己主張しないと仕事面でも活躍できない。ブラジルで日系人の政治家が数少ないのは大いにこういう素質に原因していると思う。会社でも決断力に欠けていてリーダーが少ない。

ブラジル日系人はことに〝日本的弱点〟をうけついでいるようである。カラオケが日本文化であるとして熱中し、日系人だけのグループを作り（三、四世でも!!）、やたらに日本へ行きたがる。父母の国の言葉、文化を知ることは必要だが、ブラジル人である以上、外国語として学ぶべきであろう。

私の息子や娘たちは非日系人の友達が多く、日本の〝コロニア〟とあまりつきあいはない。私はそれが自然だと思う。住んでいるところになじみ、その国の人びとと仲よくすべきだと思う。だからブラジルの日系人の〝日本的教育〟は疑問に思うし、偏った教育を受けた日系の子が、まわりの自由に育っている友だちとあまりにちがい、一生苦労することもある。正直、真面目、勤勉だけでは通用しない。

こんなことを書いているとき、たまたまこの間 Sociedade de Cultura Inglisa（英国文化協会）の新館開校式があった。

私はこの学校のメンバーで、この日、百人くらいのメンバーが集ったが、なんと日本人（日系人）は私ひとりであった。



あじさいに囲まれた二女アレシャンドラ・みちるさん

さて、この写真は昨年十二月初旬、休暇をとった次女アレシャンドラ・みちる（薬剤師）と、サンタ・カタリーナ州のグラマード市へ観光旅行したときのものである。クリチバからバスで十時間かかるが、ここは、あじさい（ポルトガル語でオルテンシアという）がたくさんあることで有名である。「黒い湖」とよばれる湖もあり、ここもあじさいで囲まれている。あじさいの美しさ、写真をご覧ください。

グラマード市では、クリスマスのかざりが道路いっぱいにあり、あまりかざらないクリチバに比べると実にきれいで、別世界の感があった。建ち並ぶ家もヨーロッパ風というかドイツ風で、町もきれいに掃除され、ヨーロッパ人の繊細さがうかがわれる。ブラジルには二つの国があるといわれるが（北と南は比べものにならないほどちがう）、同じ南でも、各市、各町でそこに定住した民族の特徴がはっきりみられる。それがまた、この国の面白さともいえる。

消費税廃止を訴える

婦人団体が共同宣伝行動

車の上から、道ゆく人に消費税の廃止を訴える

消費税実施を目前にひかえた二十四日、東京では日本婦人団体連合会（櫛田ふき会長）など十五婦人団体が共同で「消費税廃止・リクルート疑惑徹底糾明」を訴える宣伝行動を行った。

この共同行動は、国民の暮らしを直撃する消費税導入を黙って見過ごすわけにはいかぬと、「大型間接税・マル優廃止反対各界連絡会」の呼びかけた全国一斉宣伝行動に婦人たちが呼応し、行われたものだ。

「カァちゃんは怒ってるんだ！」「竹下内閣はやめよ！」など、思い思いのゼッケンやタスキをつけた女性たちは、午前十一時、JR池袋西口駅前に集合。正午からさっそく「消費税廃止」を求めるリレー演説、署名活動に入った。

「私たちは、消費税に反対する婦人たちです。今日は全国各地で婦人団体の統一行動が行われています」と呼びかけて始まったリレー演説会では、「一つ一つは小さくても、一カ月の経費でバカにならないのが消費税」「働きづめの自営業者の妻は、帳簿つけで寝る間もなくなる」「大企業はますますもうけ、一方で、働く者の暮らしは日々苦しくなる」「公団住宅居住者は、家賃値上げに加え、平均千二百円の転嫁。もう暮らせない」など、主婦、業者の団体、労働組合の代表ら十人が、宣伝カーの上から、つぎつぎと通行人に訴えかけた。

「悪いヤツが得するのでなく、正直者が良いのだと子供たちに教えたい」と、リクルート疑惑を糾弾する母親から、怒りの訴えもされた。

この日は、あいにく途中から雨が降り出し、寒い日となったが「心を燃やし、一人一人の署名で、国民総意をもって消費税廃止に追い込もう」と訴える女性たちの真剣な演説に、耳を傾ける人が目立った。

消費税に反対する声は、街頭でも高く「消費税は、まだ廃止できます」の呼びかけに、足を止め署名する人たちが多く、中には、ヘルメットのオジさんや、高校生、外国人など、いつもと違う人の姿も見られた。

この日の署名は、衆・参両議院に届けられ、国民の声を積みあげて、廃止を求めていく。

同日三時からは、JR大塚駅前に場所を移し、宣伝行動が行われた。

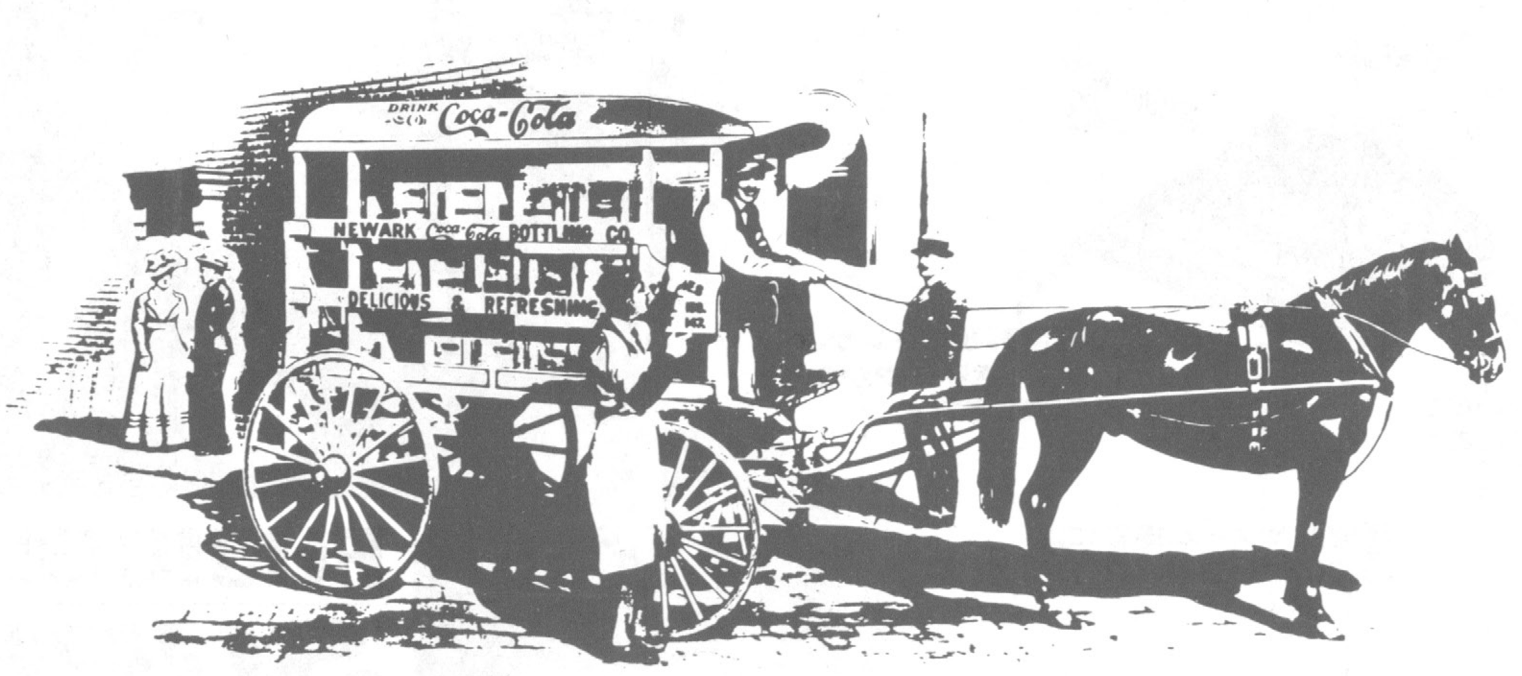
婦人手帳

☆★☆三月最終土曜日。何カ月ぶりかで取材もなく、会合もなく、一日家にいたので、近所のスーパーに買物に行った。消費税目前の土曜とあって、午前中なのに超満員。当方も調味料や雑貨など多少の〝買いだめ〟をした。

★☆★といっても、一年分も二年分も買いおけるほどの資力も、余分な住宅スペースもあるわけはなく、せいぜい一万円少々。〝五百円ほどのおトク〟でなんとなくむなしい。帰りにクリーニング屋へ寄ったら「ちょっと早いですが、うちはきょうから、値上げしましたので……」といわれがっくり。新聞でクリーニング業界は早々と値上げを決めたところが多いと書いてあったが、なるほど。おまけに「早くとりに来てくださいね」といわれてしまった。季節の変り目に加えて、値上げ前のかけこみで大変らしい。店中が、クリーニングずみの商品であふれているというふうだった。

☆★☆なんともつましい庶民の風景。だが、こんな〝買い溜め〟や〝かけこみ〟ができる人はまだいいのではないかと思う。若い友人・Aさんは、最近母子寮にうつって新しい生活を始めた。勤労意欲はモリモリあるのだが、下の子が三歳以下のため、保育園のアキがなくて、ごく短時間のパートしか働けない。四月に漸く保育園に入れることが決ってホッとしているが、今のところわずかなパートの賃金で、エンゲル計数一〇〇％よ、といっている。入る端からその日の食費に消える彼女の家ではつましい買いだめもできるはずもない。こんな彼女の食べものも大金もちの食事でも、消費税は全く同じように襲う。腹だたしい。

★☆★大きな買いもの袋の頭上で学校の校庭の桜が、二分咲きくらいにつぼみを広げていた。例年より早目の春の光景ばかりが美しい。



I feel Coke.
さわやかテイスティコカ・コーラ

一世紀をこえた、
さわやかな
おいしさ。

コカ・コーラは、
一八八六年（明治十九年）生まれ。
愛され親しまれて、一世紀。
さらに次の１００年へ向けて、
さわやかなおいしさを、
おとどけします。

コカ・コーラ ボトラーズ
Coca-ColaとコカｰコｰラCokeは、The Coca-Cola Companyの登録商標です
コカ・コーラは、世界155ヵ国以上の国々で愛され親しまれています。

立場を超えて連帯を！

いま女がはたらく、女が生きる、女がつなぐ

労働問題中心に検討

五つの問題提起と討論と

国際婦人デーの日の八日、東京・飯田橋の中央労政会館で、「──3・8国際婦人デーに熱い思いをよせて──いま女がはたらく　女が生（活）きる　女がつなぐ」（呼びかけ＝女の労働わくわく講座）という集会が開かれた。

特に、女性の労働問題を取り上げた集会で、昨年に引き続き二回目。ことしは、最近女性を取り巻く状勢が一段と厳しくなっていることから「日産の家族手当裁判を共にたたかって」「『パート福祉法』って何？そんなの必要？」「いま、公務員職場では──みんな疲れている？」「『第三世界』からの出稼ぎ労働者と私たち」「『均等法』──三年目の見直しにむけて」の五つの問題提起と、討論が行われた。

参加者は、公務員、パートタイマー、民間企業で働く人などさまざま。いま、均等法、派遣法、パート福祉法が、働く女たちを階層化、分断していく状況をつくっている。互いに手を繋ぎ運動していくことが、確認された。

問題提起では、大須賀啓子さん（健康保険の扶養認定・家族手当の男女差別をなくす交流会）が、広く“世帯主”の意味を問うことになった「日産家族手当裁判」の経緯を報告。「企業側の言い分（収入が多い方が世帯主）がまかり通ると、福祉厚生──住宅融資なども収入の多い方に支給されることになってしまう。夫に扶養される妻には、年金や配偶者控除の配慮がされ、その一方で、児童扶養手当が減らされるなど、女の中に分断が持ち込まれ、エグゼクティブではない女を切り捨てるような形がはっきりしてきている」と言う。

これと同様の指摘は、他の提起者からも出された。特に、今の職場の状況を具体的に紹介した水戸洋子さん（全逓東京貯金局）の話しは、象徴的だ。

水戸さんの勤める東京貯金センターは、約半数を占める千四百人が女性だ。「公務員は、女性でも定年まで働けると思われ、入ってくる人も多いが、毎日仕事がきつく疲れて仕様がない。仕事以外のことに思いをめぐらせる余裕はなく、昼休みも組合のことはやりたくないし、とにかく、身体を休めたい一心で、人間関係もよくない」と言う。そのため、辞め急ぐ人が増え、みんなの目標は四十八歳。「現職で死ぬ人も増え、とても定年までいられる労働条件ではない」と言うのだ。

秒単位の勤務時間管理、電車が遅れても年休を認めず二回続けば処分対象に……。週休二日制で、土曜日は“半どん”が全日勤務となり、休日は他の曜日になった。郵便配達や、夜間の小包み受付、深夜勤務に女性がどんどん“起用”された。

管理者側は「土・日を休みたい人は、辞めてもらって結構」「母性保護以外は全て男なみに働け」「子育てについての要求はいっさい持ちこむな」という態度。

しかも、仕事の外部委託が進んでいる。アジアからの外国人労働者、臨時パートが増え“効率よく安く”仕事ができるように図られ、派遣労働者も導入されているという。

アジアからの出稼ぎ労働者の存在は、さまざまな問題を投げかけている。遠野はるひさん（アジアの女たちの会）は、問題提起の中で、アジアからの若い女性が家族の犠牲になって、日本にやってきて働かなくてはならないのは、「アジアに共通の女性差別が存在するからではないか」と言う。

日本国内で、アジアの人々の就労を、ただ合法化しさえすればいいというものではないと言うのだ。

「看護婦やメイドといったサービス産業ならいいのか──政府は、この層の労働者を受け入れていきたい考え。これは、短期的に、必要な時にある、労働力として欲しいという原則があるからだ。しかし、これでは、ますます女性の労働市場は分断される。男なみに働かせられる女性の労働の、補完的な部分を、アジアの女性が担っていくことになるのではないか」と言う。

“男なみに働く女性”と表裏一体となっているのが、雇用機会均等法であることは、言うまでもない。三年目をむかえようとしている同法の見直しを求める声は多い。

「均等法は、女子が男子と均等に扱われるということで、女子と男子が均等というのではないというのが、労働省の見解。総合職と一般職の選択は、自己選択なのだから差別ではないというが、これは間接差別。男なみに働く少数の女性と、景気の安全弁として、必要な時に働かせるパートなど、女性を二本柱にしている。これは性別役割分担を固定するものだ」と大村三和子さん（女の労働・わくわく講座）は語り、均等法後の女性の職場の変化をアンケート調査し、現在の問題点をも合わせ、労働者に改善要求、“均等法”に近づけるため、交渉していくと話していた。

会場からは「どんな差別でも、どんどん言っていこう」「世帯主でない女が馘を切られた時の闘いは、盛り上がりに欠ける。女と女が繋がれる運動をつくっていきたい」など、それぞれの立場を超え、連帯していこうと訴える発言が多かった。

国際婦人デーに熱い思いをよせて

女の労働わくわく講座

シリーズ

もう一つの生き方 ⑦

まつい・ふぁみりい その③

絵本作家・まついのりこさんの物語

まついのりこさん

優等生の道歩む

先生に支えられて

昭和十九年三月、父が治安維持法で捕えられた翌日にもまた、まついのりこさん（現在絵本作家）は一生忘れられない辛い思い出がある。一年生の時の担任教師が、朝の分列行進の中にいたのりこさんをわざわざよび出した。このベテラン女教師は、運動場の隅でのりこさんにゆっくりと聞いた。「おとうさん、どこへ行ったの？」

瞬間、のりこさんは「内地留学に行きました」と答えた。学者にそういう研究制度があるのをのりこさんは知っていた。と、先生はおっかぶせるようにまたいった。「どこへ行ったの」「内地留学です」先生はさらにもう一度聞いた。見おろす先生の目がガラス玉のように見えたのを、のりこさんは覚えている。

その日から、友だちがのりこさんを避けるようになった。その辛さを、家では母にいえなかった。のりこさんは一日中本を読み、今まで以上に勉強をした。勉強では絶対にヒケをとるまいと思っていた。それは“弱味を見せない”ための必死の行動でもあった。

一カ月後、五年生になったのりこさんの新しい担任は若い女の先生だった。この先生は“級長”を選挙で選ぶといった。当時はもちろん級長は教師による任命制で、任命式は校長によって重々しく行われた。選挙など異例のことだった。のりこさんは優等生でいつも一学期の級長をしていたので、選挙でも自分が選ばれるものと思っていた。ところが開票が始まったがのりこさんの名は一票もない。のりこさんは愕然とした。

半分ほどすんだとき、先生は突然、「開票は中止。あとは先生が職員室で開きます」といった。やがて帰ってきた先生は「級長は北川紀子（まついさんの旧姓）さんです」と宣言した。

のりこさんは、みなが申しあわせて自分に票をいれなかったのがわかっていた。その日、思いあまって先生の家を訪ずれた。のりこさんの目を、ひたと見つめて、先生はいった。「あなたは級長になる資格があるのです」。のりこさんは自分が支えられている、と感じた──。

のり子さんはますます勉強した。ひたすら優等生の道を突っ走った。一度疑問を聞いて「あなたでもそんな質問をするの？」といわれて質問もできなくなった。「お利口ね、勉強が好きなのね」といわれると、もうイヤ……とはいえず、「ハイ、大好きです」という子だった。自分を出せない、本音をいわぬ子になっていた。

戦争に敗れ、民主々義が入り父も獄から出──環境は一変したが、優等生であることに変わりはなかった。

こんなのりこさんがはじめて“挫折”を味わったのが大学進学のときだった。東京の“一流大学”へ行こうとはりきっていたのりこさんは、父の宗蔵氏から、今の自分の給料では遠くにやるのは無理である。地元の大学に行ってくれと、申し渡されたのだ。大学の教授でも薄給に悩む当時だった。仕方なく、地元の和歌山大の教育学部の二年制に進んだ。“優等生”にとって“屈辱的な進路”だった。

“人生まっ暗”としかのりこさんには思えなかった。ほとんど授業にも出ず、酒をのみ煙草を吸ってみたりした。ともかく、一九五四年（昭29）に卒業、美術と国語の教員免許は取得したが、「なんの勉強をしたのか、何のために描こうと思ったか、なにもわかっていなかった」

でも、ともかく毎日が不満で、“家出して東京へ行こう”と思いつめた。“家出”のためには金がいる。アルバイトをはじめたが……その矢先、父が死んだ。脳腫瘍だった。

もう生き甲斐の不満のという暇もなくなった。とにかく明日から食べて行かなければならない。結局、祖母、母、のりこさんと妹の一家は東京へ出た。母は内職をし、のりこさんは小学校の教師になった。

のりこさんは“教師という職業”が大嫌いだった。お父さん、どこへ行ったの？」と問いつめたあの教師の顔が忘れられなかった。のりこさんを支えてくれたあの五年生のときの担任は、正規の教員ではなくて代用教員だった。敗戦になったとたん、教師をやめ、学校を去って行った。ああいう人間性の人は教師の世界に生きられないのだろうと思っていた。だが、好きも嫌いもなかった。教師しか職はなかった。

荒川の町屋の小学校の教壇にのりこさんは立った。最初の図工の時間、子どもたちに画用紙を渡し、何といっていいかわからずやっと「かいて!!」とだけいった。そんなのりこ先生にかえって親しみをもったか、子どもたちは自分たちで画をかき出した。のりこ先生は子どもたちが描いてくれたことに感動し、うまいね、すごいねといちいち感心していた。

学校は貧しい町のまん中にあり、隣はどぶ川、臓物の処理場。火葬場の煙がもろに入ってきた。学校給食だけで生きているといってよい子もおり、給食のコッペパンを大事にポケットにしまって帰る子もいた。のりこ先生の生き方は素朴になって行き、気がつくといつの間にかタバコもやめていた。

社会科学の本に興味をもち読むようになり、父宗蔵の生き方も本当に理解できた、と思ったのはこのころだった。（つづく）

日本の国を救おう！

徳島県鷲敷町の人々立ち上がる　運動に参加を

一昨々年、徳島県の山間の村・鷲敷町の老人たちが、子や孫に“平和をのこさなければ”と遺言運動にたちあがったことを覚えておいでだろうか。

あの鷲敷町の人びとが、この日本の国をこのままにしていいのかと立ち上がった。

これは昨年十二月三十日、朝日新聞「座標」欄（関西版）にのった“この国ではもう、ものの道理が通じない。……国民はなめられきっているのである。衆愚の楽園となった社会ほど、操作しやすいものはない。こうなったらもう仕方がない。正直のこうべ高く上げ、清貧の胸を張って造反の旗を翻すほかはない。…（要旨）”という文章を、隣人から隣人へコピーしおくりとどけようというもの。

『“衆愚の楽園”こんな哀しい言葉はない。そんな日本を次代におくる訳にはいかない。わたしたちはまず、リクルート疑惑の徹底糾明と、弱者に重い間接消費税の撤回を要求する』『“まともな日本”を目指してのこの運動に参加してください』と訴えている。

問合わせ、協力カンパ（切手）は＝〒771−52　徳島県那賀郡鷲敷町和食　人間と平和を大切に考える者のつどい。

各界で活躍の才女

「東大卒の女性」出版記念会開く　百人が集い祝う

さつき会の代表、左から影山裕子さん、近藤さん、村松さん

東大卒の女性
──ライフ・リポート

女性たちだけの華やかなパーティー

私たちもさつき会員、中島通子さん（弁護士）、樋口恵子さん（評論家）右側

『東大卒の女性──ライフ・リポート』（三省堂）という三百三十㌻余りの本が出版され、三月八日、東京・学士会館で、本の内容紹介と出版を祝う会が行われた。

“東大出身”という学歴は、学歴社会にあっては水戸黄門の印籠のような力を持っている反面、特殊視されて重荷にもなるという二つの面を持っている。

『東大卒の女性──』は、東大を卒業した女性たちが、プラスの面をどのように生かし、プレッシャーをどう克服し、どういった分野で、どの様な活躍をしているのかを、東大女子卒業生の任意加入の同窓会「さつき会」（会員千四百人、近藤夏子代表＝C・K・インターナショナル）が初めて調査しまとめたものだ。調査は、「さつき会」の創立三十五周年記念事業のひとつとして、八五年に実施されたもの。

東京大学が女性に初めて門戸を開いたのは、一九四六（昭和二十一）年。この年、十九名の女性が入学した（うち卒業したのは十四名）。十九名の学生生活は、女子トイレを要求するところから始まった。

第一部「東大女子学生キャンパス小史」には、十九人の女子入学生の入学当時の様子から、安保と樺美智子の死、東大紛争、一次体制で女子学生の大躍進など、新人類のキャンパスライフまでがつづられている。

第二部「調査から見た東大女子卒業生」は、「さつき会」が約三千人を対象（有効回答＝七百九十五）に、仕事や家庭、人生に関する調査をベースに分析し、読みやすく紹介されている。

社会や女性をめぐる状況の変化、東大の歴史などから、第一世代（'49〜'64年卒業）、第二世代（'65〜'74年卒業）、第三世代（'75〜'81年卒業）と、三つに区分して分析を行っているのが特徴で、六章から構成されている。

東大に学んだ女性のうち「どうしても東大に入りたかった」という人は二九％、「だめなら他大学でもよい」五三％で、男子学生（70年以降東大調査）が、「どうしても」組が常に四〇〜五〇％に比べると少ない。

それは、入学動機で「将来の安定した生活を考えて」と答えた人が、わずか三％しかいなかったことからも察せられるが、女性は東大を出ても、必ずしも安定した生活が得られるとは思っていない──そういった社会状況があったといえまいか。

専攻は、第一世代では三人に一人強が文学部だったのに対し、第三世代では四人に一人と文学部が減り、法・教育・工・農・薬学部などへの進出が目立つ。

職業経歴をみると、「ずっと有職」四七％、「一時中断、現在有職」二四％、「しばらく無職、現在有職」七％で、七八％が有職者だ。

「東大卒の女性は、仕事と家庭との葛藤を上手に処理し、結婚、育児、夫の転勤などのハードルを上手に乗り越えてきた人が多い。例えば、夫の転勤で自分の仕事を中断せざるをえなくなっても、逆にそれをチャンスにし、勉強して新しい資格を取ったり、その場所でしか学べないものを学んだりしている」（村松泰子さん＝さつき会＝NHK放送文化調査研究所）。

有職者の仕事内容をみると、専門職の勤め人と管理職で六〇％を越えているが、その半数以上が大学の教授・助教授だ。研究職が圧倒的に多く、一般企業の管理職が少ないのは、上の世代では、女性が一般企業に進出する道が狭かったことを意味している。

仕事のほかに、社会活動にも積極的で、リーダー的な存在にある。趣味、スポーツなど遊びの分野でも活発で、積極人生を送っている人が多い。

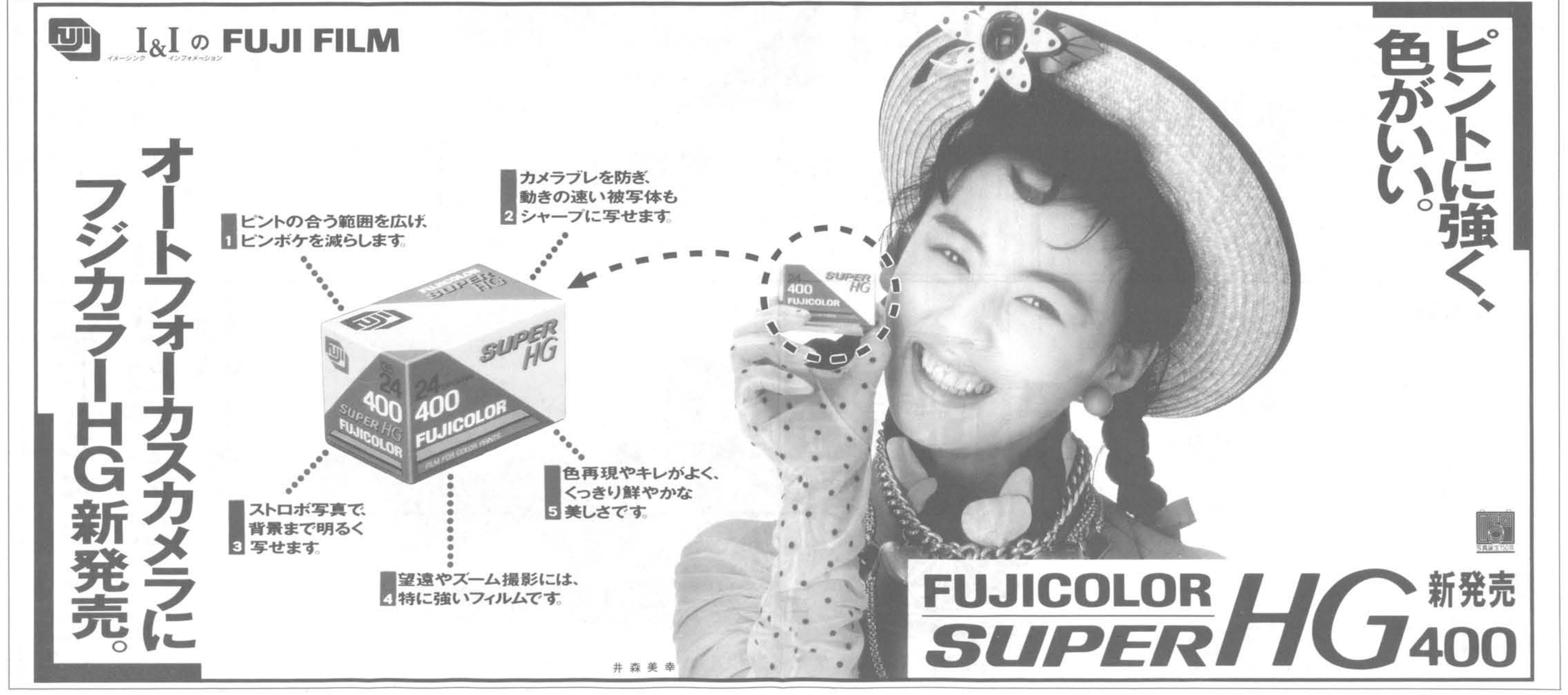
逆に、東大出身というレッテルに自分が縛られ、周囲の目が重荷と感じている人もいる。

しかし、男性優位の社会に、東大という踏み台を力いっぱい踏みしめて飛び込み、政官界、教育界、法曹界、マスコミ、一般企業などで活躍している姿がくっきりと浮き彫りにされている。

第三部「東大卒女性の昨日・今日・明日」をテーマに、樋口恵子さんの司会で、各世代の卒業生五人による座談会になっている。

そのほか、“自分にとっての東大とは”というエッセイやライフヒストリーなど、八十人の女性の声が掲載され、読みものとしても興味深い。

この日、学士会館には約百名の卒業生が集まり、出版を祝うとともに、近況報告を話しあうなど華やかに盛りあがった。



I&I の FUJI FILM
イメージング インフォメーション
ピントに強く、色がいい。
オートフォーカスカメラにフジカラーHG新発売。
1 ピントの合う範囲を広げ、ピンボケを減らします。
2 カメラブレを防ぎ、動きの速い被写体もシャープに写せます。
3 ストロボ写真で、背景まで明るく写せます。
4 望遠やズーム撮影には、特に強いフィルムです。
5 色再現やキレがよく、くっきり鮮やかな美しさです。
FUJICOLOR SUPER HG 400 新発売
井森美幸

71歳・米国で女性学を学ぶ　その③

「女性学の三つの柱」

斎藤　道子

「女性と政治」の授業は「女性の歴史」ではじまった。といっても、女性の状況や活動を年代を追って語るのではなく、女性の歴史はなぜ書かれなかったかを問題にするのである。

従来の歴史は権力の消長の研究であった。女性に権力を与えない社会にあっては、女性が歴史の主流に出て来ないのは当然である。しかし、歴史の表層にあらわれていない人々──女性も含めて──を掘り起こすのでなければ、真実の歴史とはいえない。そして、新しく得られた歴史的事実をもって、伝統的な歴史像は書きかえられなければならない。女性史の意義は、女性の眼で歴史を見直すことによって、新しい歴史の全体像を構築するところにある。

女性の歴史の中で、現在との関連で特に重要なのは「主婦」の出現である。単純化していえば、産業革命以降、男は自分の土地を離れて工場で働くようになり、女は子供と共に残された。彼女の役目は夫のために慰安所としての家庭を整えることである。こうして生産から切り離された私的領域としての家庭と、その家庭の責任者としての「主婦」が歴史に登場する。しかし、主婦を生んだ社会的条件は主婦を家庭から追い出す条件でもあった。

貧しい人々は、主婦もまた工場で働かなければ生活して行けない。家庭外では労働者としての、家庭内では妻として母としての家事育児の責任という二重の負担を負うのである。主婦は「家庭の天使」というのは幻想であって、二重負担に苦しんでいるのが、現代でも大多数の女性の状況なのである。

私たちは中国の女性の生活を扱ったフィルムをみた。てん足から解放された老婦人。しかし、婚家の先祖への礼拝を強いられる花嫁、男児誕生のよろこび等、男性支配の現実も映され、社会主義は女性解放を助けたとしても、社会主義即女性の解放ではないというのが、このフィルムの意図するところである。

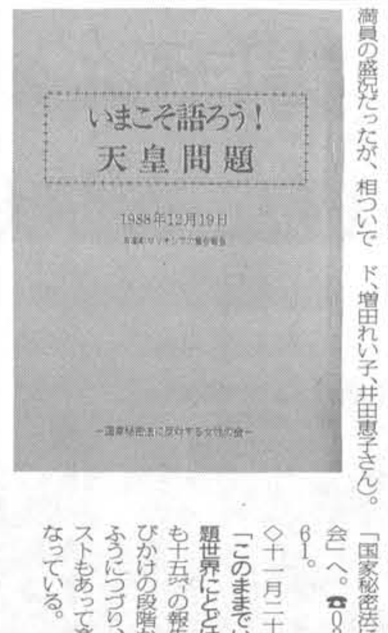
女性の眼で歴史の全体像を捉え直すこと、現代の女性問題理解の鍵として主婦と職業の歴史的分析が必要であること、女性抑圧は階級のみでなく性差別にも基づくものであること、これば女性学の三つの柱であると、私は理解した。

私は女性史を勉強していたので講義は理解できた。しかし、課題の読書の量の多さはどうだろう。「女性と政治」のコースだけでも、小さな字でビッシリと百四十㌻余り。それにタイプで二㌻のペーパーを毎週提出しなければならない。「入門コース」とあわせると負担は倍になる。しかも、わたされた予定表によると、週が進むごとに課題読書の量は増えて行く。これを消化できるとは思えない。

私の予定では、夜は机に向うとしても、昼間は街に出たり、アメリカの人とも遊んだりして生きた勉強をするつもりであった。劇や音楽会も比較的安価らしいので楽しみにしていた。だが、こんな計画はたちまち崩れてしまった。

六月中なら登録を取消すことができる。一コースだけにしようか、相談する相手もいない。結局、これは自分でしか解決できない問題なのだ。隣の家にでも行くような気軽さでとび出してきたが、この時、一体何のためにここまで出掛けてきたのかと、改めて自分に問い直してみるのだった。

天皇問題報告集　相ついで出る！



集会報告集
世界にとどけ女たちの声！
このままでいいの？天皇の問題

昨年、女性の手で、天皇問題の集会が数多く開かれ、どれも満員の盛況だったが、相ついで報告集が出ている。

◇『いまこそ語ろう！天皇問題』

国家秘密法に反対する女性の会の主催で昨年十二月十九日、有楽町マリオンで開かれた集会の報告。A五判三十四㌻。パネラー五氏の発言（加納実紀代、山崎朋子、ジャスリン・フォード、増田れい子、井田恵子さん）。会場発言から、森井真明治学院大学々長の話をくわしく、あとの発言は要旨。会場でのアンケートのまとめなどが掲載されている。アンケート回収が百六十一枚、実に五人に一人が提出しているのが注目される。

頒価・三百円。購入希望者は「国家秘密法に反対する女性の会」へ。☎03・447・1361。

◇十一月二十三日に開かれた「このままでいいの？天皇の問題世界にとどけ女たちの声！」も十五㌻の報告集を出した。よびかけの段階からドキュメントふうにつづり、マンガふうイラストもあって楽しい読みものになっている。

コメの輸入に反対する

日本農業を守る3・18決起集会

全国から三千人が参加

「日本の農業を守れ！」とムシロ旗をかかげて行進

三月十八日、ニワトリを入れたカゴを先頭に、トラクター、ムシロ旗、それぞれの思いを書いたプラカード、幟をはためかせながら、「日本の農業を守ろう！」「消費税を廃止しよう！」「竹下内閣は総辞職しろ！」と叫び、日比谷、新橋、八重洲へと進むデモ行進に、路行く人は足を止め、なに事かとビルの窓から顔を出してながめ、やがてうなずく姿があちこちでみられた。

この日、東京・日比谷大音楽堂で、“国民の食料と健康・日本農業を守ろう”と『コメ輸入反対　国民の食料と健康・日本農業を守る3・18中央決起集会』（主催＝同実行委員会）が開かれた。全国から百十団体、三千人を越す農民、労働者、消費者団体、市民などが集まり、現状報告やこれからの運動に対する決意を述べた。

国民の納得する食糧政策を示さないまま、米・みかんなどの減反、その一方では牛肉、オレンジの自由化。更に、米輸入にも踏み切りそうな気配だ。

農業経営に、全く見通しがつかないばかりか、真綿でジワリ、ジワリと首を締めていくような政府のやり方に、現場の農民たちは悲痛な声をあげ、三分間スピーチを行った。

「二年前、生産過剰で牛乳をドブに捨てさせられ、今度は足りないと外国から百万㌧も輸入。このように外国の農産物を輸入するために減反、減量させて、不平を言えばペナルティを加えて農業つぶしを実行するのが政府のやり方だ」（北海道代表）、「二年間続いての米価引き下げで、農業経営者は大きな打撃を受けている。しかも、自民党は米輸入をもくろんでいる。そうなると、日本の米農業は成立たない。一粒たりとも米の輸入は許してはならない」（東北代表）、「ミカンも減反を強いられ、伐採すれば反当たり二十〜三十万の補助を出すという。先祖伝来育てたミカンを百万、二百万円出されようと伐採できない。日本の農業は減反させ、私たちの金で作った工場で、アメリカから輸入したオレンジでジュースを絞っている。こんなことが許されていいのか」（近畿代表）。

女性の立場から農民連常任委員の高橋マス子さんは「いま、農家は農業経営だけでは食べていけない。夫が外に稼ぎに出れば、農業は女と老人の仕事になる。それでも食べられないで、女もパートに出ている人が多い。経営のひっ迫に加え、中心になって働く女性の地位の低さから、何もかも女にシワ寄せが来て健康を害している。それが食生活の低下や教育も十分させられない事態を招いている。こうした状況や農業つぶしに立ち向かうには女が団結するしかない！」と訴えた。

俳優の花沢徳衛さんは、「主権在民、平和憲法は、日本の犠牲者に加え中国、アジア二千万人の犠牲によってもたらされたもの。その憲法が空文化されようとしている。死んでいった人のためにも、空文化させてはいけない。守るのが生きている者の務めだ。古来から日本は瑞穂の国と呼ばれた米の国だ。それなのに米を作るな、うちの米を買えと言われ、言いなりになるなんてとんでもない。外国の言いなりになっているこの様な状態は、歴史上例をみない。あの明治時代さえこんなにはなっていなかった。もはや政治の流れを変えるより他にやり方はない！」と呼びかけ、会場は一段と盛り上がる。

農業の、政治の、あしたに不安を抱く発言が続く中で、明るい話題を提供してくれたのは、栃木県那須町の小野操さんと野平曜子さんの「私たちは農業の未来に期待し、明日（十九日）結婚します」という壇上からの報告だった。

主催者を代表して、後藤英雄全農協労連委員長は、リクルート問題、消費税問題で竹下内閣は辞任しろ、国会を解散せよと国民の声がわきあがっている中で開かれた意義深い集会だ。食糧問題は直接国民にかかわってくるものだ。この問題を各地に持ち帰り、全国民の共有する問題として闘おう。歪んだ政治を正しい政治にするよう闘おう──と呼びかけた。

最後に、「日本の農業を、国民の命と健康を守るために欠かすことのできない国の基幹産業として位置づけ、子供たちに豊かな緑と国土、安全で安定的な食糧供給をになう農業をひきついでいけるように、みんなで力をあわせよう」（要旨）というアピール案を採択し、デモ行進をしながら市民に訴えた。

情報スクランブル
読者のひろば

みんなのページです。思ったことや、お知らせしたいことがあったら自由に利用して下さい──編集部

あわせ鏡

個人輸入もまた楽し

アメリカのカタログを取りよせて、洋服とか、下着、靴下、さまざまな品物を買うことができる。私は、少々ふとめなので、スカートや、ジャンパーなど、日本では気に入った物は、(9)サイズ、あっても(11)サイズしかないので、アメリカのカタログ販売に夢中だ。それに、円高なので少々やすく手に入れることができる。サイズも、きちんとはかって、色も、数も、忘れず注文しないと、時々、驚くことがある。この前、ベージュ色のブーツを注文したらコバルト・ブルーのブーツが着いた。家の中ではいていたらお米屋さんが来た。「奥さん、おふろのそうじですか？」と言った。なるほど、おふろ場そうじ用のブーツに見えるようなはでな色だ。返品するのもくやしいので、まだブーツは箱の中、というわけです。（R）

八人の女性に奨学金

エイボン女性スカラーシップ　'89年度の奨学生

奨学金授与式で笑顔いっぱいの奨学生たち

「エイボン女性スカラーシップ」の一九八九年度の奨学生（社会人入学の部）がこのほど決まり、八名の女性たちに奨学金が授与された。この制度は、エイボン女性文化センターが一九八〇年から実施し、家庭の主婦や働く女性で、大学で学ぶ女性を激励・援助しようというもので、ことしで四十五人に贈られることになる。

発足当初は、立教大学一校のみが対象校だったが、今年度は十一校を対象に募り、総数五十八名の応募者の中から、審査の上神奈川大学二部経済学部三年の井上ちよ子さん（三三）をはじめ、八名に決定。奨学金各二十万円が贈られた。

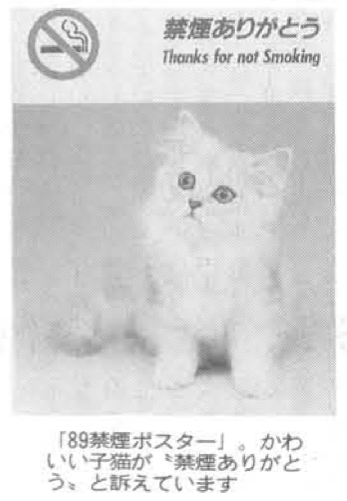
同スカラーシップ選考委員の一人、鳥越成代さん（東京女子大学助教授）は「応募者が多く大学で学ぶという意欲が強いことに感心する。社会人学生が、若い人と一緒に熱心に学ぶ姿を見て、大きな勇気と努力があるものだと思うと同時に、大学のあり方も考えてしまう。今、社会人に門戸を開いているのは、全ての大学ではないが、今後、もっと門戸が開かれれば…」と話していた。

一九八九年度の奨学生は次のとおり。（五十音順敬省略）

井上ちよ子（三三）神奈川大学二部経済学部三年　印出恵美子（二九）明治学院大学二部社会学部一年　大井陵子（二九）明治大学二部政治経済学部三年　佐藤和佳子（二九）立教大学一部法学部一年　関根和子（二九）専修大学二部商学部三年　堀千和子（三三）青山学院大学二部文学部二年　宮澤愛子（四九）立教大学一部法学部二年　山田祐子（三三）明治大学二部法学部二年

禁煙週間にシンポジウム

タバコと健康全国協議会



「89禁煙ポスター」。かわいい子猫が〝禁煙ありがとう〟と訴えています

家庭や病院などの公共の場所、また、地下鉄、JRなど輸送機関での“喫煙規制”が進んでいます。タバコの煙の有害性が広く認識されてきたことが、その大きな原因ですが、最も規制しなければならない「職場」の状況はどうでしょうか。

労働省は昨年「職場における喫煙に関する懇談会」の報告をまとめ、政府機関として初めて喫煙対策を提案しましたが、職場の喫煙に対する問題意識はまだまだ薄く、非喫煙者が一方的にガマンしているケースがほとんどです。

そこで今年の「禁煙週間」にシンポジウム『職場の煙どうしてますか』を開くことにしました。日頃、タバコの煙に悩まされている方、やめたいと思っている方、多くの方々のご参加をお待ちします。（タバコと健康全国協議会）

日時…4月6日（木）18時30分〜21時（18時開場）　会場…文京区民センター（都営三田線「春日町」、丸の内線「後楽園」下車4分、JR線「水道橋」下車7分）☎03・814・6731　パネリスト…浅野牧茂（国立公衆衛生院・生理衛生学部長）、伊佐山芳郎（弁護士）、飯田豊彦（足立区議）、上幸雄（地域交流センター）の各氏　参加費…500円（含資料代）　連絡…たばこ問題情報センター☎03・814・3234

お知らせ

◆三井マリ子トークライブシリーズⅦ・春、女のちから、全開「ここだけの教育の話」　日時…4月1日（土）14時〜16時　場所…杉並区立勤労福祉会館西荻地域区民センター　ゲスト…俵萠子さん　参加費…1000円（託児要予約）　連絡…まじょりてぃ企画☎03・318・5860

◆春の公開ゼミナール「わたしにとっての1月7日──視て、聴いて、感じたことを話そう」　日時…4月1日（土）14時　場所…中野区勤労福祉会館大会議室（JR中野駅南口5分）　参加費…1000円　主催…Weの会　問い合わせ…東田☎0424・73・1883（夜）

◆シンポジウム「日米比較──女性の自立とその問題」　日時…4月1日（土）13時30分〜16時　場所…東京都婦人情報センター（セントラルプラザ13F大会議室）　内容…これからの女性のあり方、社会のあり方、自身の生き方を考える　講師…スザンナ・H・ヴォーゲルさん（フルブライト研究員、ハーバード大学ヘルスセンター・メンタルヘルスサービス主任ソーシャルワーカー）、神井孝子さん（お茶の水女子大学家政学部助教授）　会費…1000円　主催…にほんごの会　連絡…☎03・427・7609

◆地方自治学習講座　日時…4月7日（金）〜22日（土）10時〜12時　場所…婦選会館　テーマ…今日の地方自治の問題点　講師…松阪大学教授・加藤富子さん　内容…4/7「地方自治における日米格差」4/14「議会の代表性喪失の傾向」4/22「政治腐敗の原因」　聴講料…3600円（全3回）　申し込み金1000円　主催…(財)市川房枝記念会〒151渋谷区代々木2−21−11☎03・370・0238

◆講演会　日時…4月7日（金）13時30分〜15時30分　場所…婦選会館　テーマ…国際政治と天皇　講師…成蹊大学教授・宇野重昭さん　定員…50名　参加費…1000円　申し込み…電話で(財)市川房枝記念会（☎03・370・0238）へ

◆老年学講座シリーズ　痴呆講座『老人のぼけを知り、ともに生きる』──第1回　日時…4月8日（土）〜7月1日（土）までの毎週土曜日10時30分〜12時30分、13時30分〜15時30分（各2時間）　場所…(財)総合健康推進財団付属研究所・保健福祉研修センター（☎03・822・7011）　内容…家庭や地域で役立つ、老人のぼけに関する最新の知識と技術をもり込んだ社会教育講座　対象…一般、ボランティア、寮母、ヘルパー等現場で老人と関わりのある人、年齢、性別不問　定員…50名　受講料…12500円（施設実習実費）　問い合わせ…同財団企画事務局☎03・256・5346

◆老人医療勉強会　日時…4月8日（土）13時30分〜16時　場所…東京都社会福祉総合センター講習講座室（飯田橋セントラルプラザ5F）　テーマ…「老人医療行政の現状と課題」（仮題）　講師…厚生省大臣官房老人保健福祉部企画課長・高木俊明さん　会費…無料（但し、資料がある場合は資料代200円が必要）　申込先…高齢化社会をよくする女性の会☎03・356・3564か、3月末日までに☎で申し込むこと。

◆シンポジウム「預ける育児・預かる育児」　日時…4月8日（土）13時〜16時　場所…お茶の水スクエア・カザルスホール　内容…基調講演「福祉先進国の保育事情」（埼玉県立衛生短期大学助教授・荒井洌さん）、パネルディスカッション（子どもの城小児保健部長・巷野悟郎さん、ニュースキャスター・安藤和津さん、国立公衆衛生院母性小児衛生学部長・高野陽さん、東京女子大学教授・柏木恵子さんほか）　定員…500名　受講料…3000円　申し込み・問い合わせ…㈱主婦の友育児センター〒101東京都千代田区神田駿河台2−9☎03・294・1160　主催…㈱主婦の友社

◆あんちーく　シネマ館（嬉し　懐かし　サイレント（弁士付）しませう）　日時　4月11日（火）18時30分開映　場所…西荻地域区民センター（JR荻窪北口よりバス桃井4丁目下車）　上映作品…「散り行く花」（'19）リリアン・ギッシュ主演、「スケート」（'16）チャールス・チャップリン主演、弁士…澤登翠さん　定員…366人※3〜6歳託児有　入場…無料　主催…杉並区教育委員会　問い合わせ…同教育委員会社会教育部婦人青少年室☎03・312・2111内293

◆キミ子方式・松本キミ子講演会「絵のかけない子は私の教師」　日時…4月15日（土）15時　場所…府中グリーンプラザ6F大会議室（京王線府中駅北口下車すぐ）　会費…4000円　主催者・連絡先…☎0423・31・5777

◆第41回婦人週間全国会議　日時…5月31日（水）13時〜16時　場所…東京・千代田区公会堂　内容…国連婦人の地位委員会報告（国連婦人の地位委員会日本代表・有馬真喜子さん）、公開座談会「地球的規模で活躍する女性たち」（前ウルグァイ東方共和国駐在特命全権大使・赤松良子さん、朝日新聞編集委員・下村満子さん、国際連合事務次長・マーガレット・ジョアン・アンスティさん）　主催…労働省　申し込み…労働省婦人局婦人政策課☎03・593・1211か最寄りの婦人少年室へ

3夜連続　4/2(日)・3(月)・4(火)よる9:00　オリジナル版
開局30周年記念特別企画
ラストエンペラー
劇場未公開部分も加えて三夜連続放送！
'88アカデミー賞9部門獲得の名作が早くもテレビ初登場！清朝最後の皇帝の生涯を描く壮大な人間ドラマ。
出演■ジョン・ローン/ピーター・オトゥール/坂本龍一　監督■ベルナルド・ベルトルッチ　音楽■坂本龍一　ほか

2夜連続　4/6(木)・7(金)よる8:00
開局30周年記念ドラマスペシャル
氷点
原作■三浦綾子
脚本■井沢満
演出■大野木直之
テーマ曲「氷点」
作詞■並河祥太
作曲■玉置浩二
編曲■星勝
唄■玉置浩二
〈キティレコード〉
新人・万里洋子が三代目陽子役でデビュー！
あの感動をいまふたたび！人間の"原罪"に迫る永遠のベストセラーを、装いも新たにドラマ化。
出演：いしだあゆみ、津川雅彦、世良公則、泉ピン子、島田陽子 ほか

4/2スタート日曜よる8:00
（第1回目はよる7:00から2時間スペシャル版）
ゴリラ　警視庁捜査第8班
テレビ映画の常識を超えたアドベンチャー刑事アクション。
出演：渡　哲也、舘ひろし、神田正輝ほか

テレビ朝日は　時代に敏感です
10　テレビ朝日
来週からよる6:00放送
(月〜金)に変わります。
ニュースシャトル
生活に結びついたニュース番組としてますます充実。星野知子をはじめ、おなじみのスタッフも大張りきり！

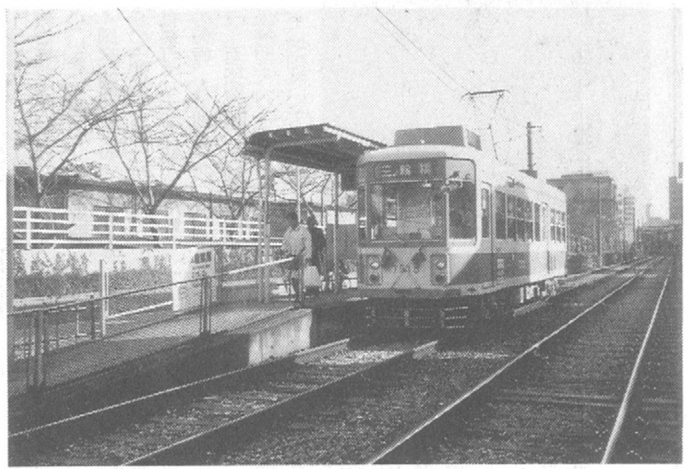
住民主導でイベントを実施

東京・荒川区の場合に見る町づくりプラン

〝楽しく住める町〟へ

役所はPR係に

この四月から「川の手荒川セールスマン」



都内に唯一のこる都電・荒川線
区内の便利な足として区民に利用されている

大分県の『一村一品』運動に代表されるように、数年前から自治体主体の町おこし、村おこし運動が各地で盛んだ。

その多くは、土地の特産、地場産業などを活性化、それを広く知らせることで、話題を集め町おこし、村おこしに繋げようというものだ。

この方法を全く逆の形で地域のイメージ・アップに取り組み話題となっているのが、東京・荒川区だ。

一九八六年からの「川の手キャンペーン」を初め、八八年の「探偵団の募集」と「全国探偵団会議」の開催。そして四回からは「川の手荒川セールスマン&100イベント」を展開する。

〝とかく役所のやることは…〟の風評の絶えない中で、このユニークなネーミングと奇抜なアイディアは、注目の的だ。

東京に住む人が持つ〝荒川〟のイメージは、はっきり言ってよくない。そうかといって、〝〇〇がよくない〟という、明確な理由はなく、ただ〝何となく〟なのである。

この何となくよくないイメージを、何とか高めようというのが、『川の手キャンペーン』の始まりだった。

「荒川区と隣接して隅田川が流れています。その距離は、隣接するどの区よりも長いのです。水や緑、自然を取り込んだ町づくり――そのため荒川区そのものを一つのエリアとしてアピールできないかと考えたわけです」（同企画部企画課・川和田昌弘さん）。

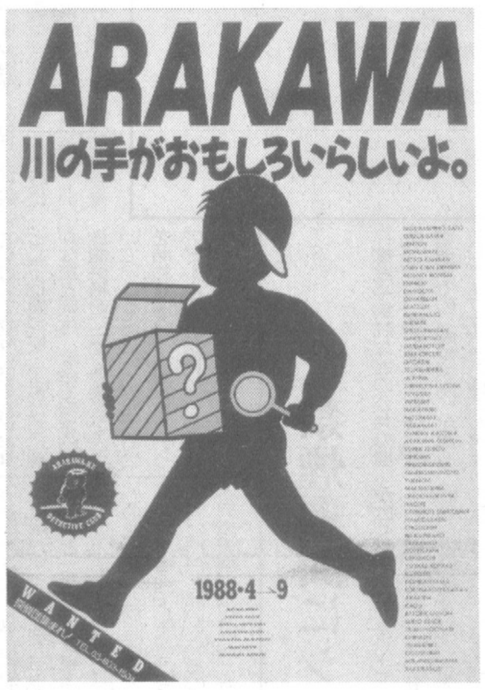
「山の手」に対抗するかたちで名付けた「川の手」をキー・ワードに、区内にポスターを貼りキャンペーンをはった。

そして二年後の八八年、ターゲットを外に向けた。それも〝荒川区には、こんなにいいものがあるんだゾ〟と役所が決めつけるのではなく「本当にオモシロイのか確かめて下さい」という方法をとった。

これが『川の手探偵団』の誕生であり、『全国探偵団会議』の開催だった。

まず、「まちの探偵団」が募集された。「ARAKAWA 川の手がおもしろいらしいよ。」のコピーに、百数十件の問い合わせがあった。その中から実際に応募があり、〝川の手荒川区のおもしろいもの〟を調査してくれそうな、二十四の探偵団に調査が依頼された。調査の条件は、〝自分の足で歩くこと〟。〝報酬は、都電、都バス、都営地下鉄の一日乗車券の「探偵団通行手形」。

探偵団の三分の二が、千葉、埼玉、東京・杉並など区外の人たち。一グループ三人～五十人、年齢も小学生から五、六十歳までという、老若男女を問わないバラバラの構成だ。



探偵団を探偵しようと参加した東京・大田区職員の「都市評論グループ」、同区内の商店街を巡り、買物をして調査した女子学生グループ「キンピラドーナツ団」（東京・杉並）、「荒川区 商店街 元気印 おばあちゃん 50名 大集合マップ」をつくった「路地四十路探偵団」、校章の植物は何かを調べた「七峡小学校探偵団」、区内の八十六の銭湯に全て入り、銭湯の文化を研究した「荒川探偵団」（既存）など、十七の探偵団からの調査報告が、川の手探偵団事務局に寄せられた。

これをもとに、九月「全国探偵団会議」を開催。五つの探偵団の報告と、パネルディスカッション「まちに匿された情報を探る／探偵情報をどう活かすか」（パネラー＝東京大学教授・大森彌さん、建築史家・藤森照信さん、イラストライター・南伸坊さん、環境プランナー・藤沢毅さん）で、川の手探偵団の総決算が行われた。そして、探偵団の報告集が今月末、一冊にまとめられ発刊される。

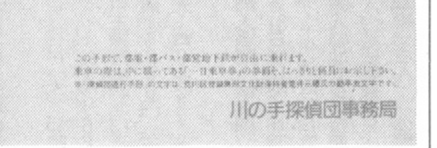
「銭湯へ行ったり、もんじゃを食べたり、路地裏の盆栽を見たり――その中でわかったことは人がいるということ。自分だけでなく、通行人の目に触れてもいいと盆栽をつくる人、いろんな人が話し合っていく銭湯、人が住んでいて、生活の営みが投影されているところが、荒川のよさだということがわかりました」（前出・川和田さん）。

四月から始まる、新しいキャンペーンは「川の手荒川セールスマン&100イベント」。PR、キャンペーン、CIというのは、ともすると役所が中心になりがちだ。荒川区のよさは、いい風景となって現れているのだからこのさい役所は出ないで、荒川区の良さを〝外〟に向かって売り込んでくれる「川の手荒川セールスマン」を百人募集、その人たちが、一つずつのイベントを工夫、主催し百のイベントを実施してもらおうというものだ。

セールスマンは、住所、氏名、電話番号、写真、得意とするPR分野をカタログに掲載され、全国に配布される。このカタログを見て、電話や手紙での問い合わせをすると、セールスマンとなった区民がたちどころに、同区の宣伝をしてくれるという具合。

イベントも、もんじゃ焼きパーティ、かつぎ屋フェスタ、銭湯ラリーといろいろ考えられるという。区役所は、イベントのPR、アドバイス、一件五万円までの援助など、助っ人をするだけで、イニシアティブは区民にある。

「今、流行の博覧会のように大きなものではありませんが、いつどこへいっても何かやっている――というものです。これを一～二年やって、いろんな人とネットワークを組み、浅草や上野の持つようなものを荒川が持てるのではないか、と思っています」（川和田さん）


探偵団通行手形
川の手探偵団事務局

同区のキャンペーンは、言うなれば、〝お上から――〟の発想を変えようとする、区民主体の町づくりの引き金とも言えそうだ。

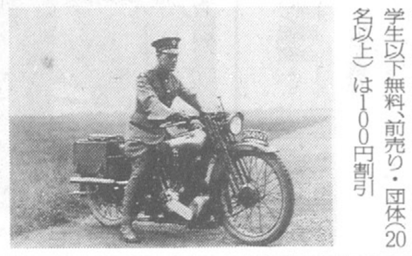
何かと固苦しいことばかり並べ、〝お上から下々へ〟の行政が多い中で、同区の試みは好ましい方向で、この先が楽しみでもある。

だが、ここ一、二年、生活保護の打ち切りの問題で話題にのぼるのも同区だ。楽しく明るい町づくりのプランの影に、泣く人もいる。同区のセールスポイントが「人の住む町」から「人が楽しく住める町」になる日が待ち遠しい。

てんらん会

◆タイ日障害児の絵画展
会期…3月31日（金）～4月2日（日）　時間…31日＝9時～20時、1日＝9時～17時、2日＝9時～16時　場所…東京都社会福祉総合センターふくしホール　内容…タイ・バンコクでインド、インドネシア、カンボジア、日本が参加して開かれる「タイ国障害児の絵画展」との同時開催　入場…無料　主催…「タイ日障害児の絵画展」東京実行委員会　連絡…☎03・931・8670（佐竹）、☎03・203・6141内314（東京都身障者福祉センター・田中）

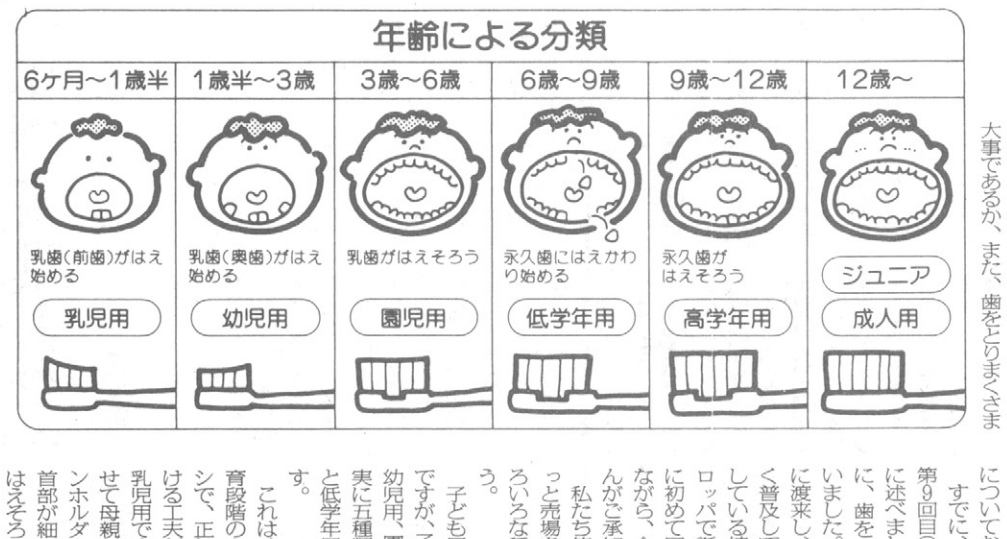
◆「アラビアのロレンス展」
会期…4月7日（金）～26日（水）10時～19時　※木曜休館　場所…西武アート・フォーラム（西武百貨店池袋店8階）　内容…アラビアの砂漠を舞台にしたスペクタクル映画「アラビアのロレンス」の主人公のモデルT・E・ロレンスの生誕百年目に、本国、イギリスで「アラビアのロレンス展」を主催したナショナル・ポートレート・ギャラリーの全面協力を得、彼の愛用したオートバイ、軍服、などを展示　入場料…一般600円、大・高・中生400円、小学生以下無料、前売り・団体（20名以上）は100円割引



愛用バイクに乗るロレンス

歯ッ！とする話 〈65〉

目的と自分の歯に合った歯ブラシを選ぼう



〈最終回〉歯ブラシについて

いよいよこのコーナーも、最終回をむかえました。二年間にわたり、歯と私たちの健康とのかかわりがどんなに深く、大事であるか、また、歯をとりまくさまざまな事柄について紹介してきました。

そこで今回は、私たちが歯を大切にするためには欠かせない、歯ブラシの種類についてお話ししましょう。

すでに、歯ブラシのルーツについては、第9回目（本紙一九八七年六月三十日号）に述べました。人間は文明の発生と同時に、歯をきれいにする道具をつかっていました。日本では、仏教の伝来とともに渡来し、江戸時代には揚枝として、広く普及していたこと、私たちが現在使用している植毛歯ブラシが十七世紀にヨーロッパで誕生し、一八七二年（明治五年）に初めて国内生産され、材質の変遷を経ながら、今日に至っていることは、皆さんがご承知のとおりです。

私たち使っている歯ブラシ、店でちょっと売場を見渡しただけでも、随分、いろいろな種類があることに気付くでしょう。

子ども用と大人用があるのはもちろんですが、子ども用一つとっても、乳児用、幼児用、園児用、低学年用、高学年用と、実に五種類もあります。さらに、園児用と低学年用には、それぞれ二種類あります。

これは、子どもの、歯と刷掃能力の発育段階のムシ歯予防を目的とした歯ブラシで、正しいブラッシング習慣を身につける工夫がされているからです。例えば、乳児用ですと、子どもをひざの上に寝かせて母親が磨きますので、握りやすいペンホルダー式で、ヘッドはコンパクトで、首部が細長くなっています。幼児用は、はえそろった歯までよく磨けるように、先端を低くした傾斜型植毛になっているのです。園児用からは、磨くのが子ども自身ですから、それぞれ手の発育に合わせたハンドル設計になっています。

一方、大人用の歯ブラシも、多種多様です。まず気付くのは「レディ」の表示がある歯ブラシでしょう。これは、女性専用のものですが、何もレギュラータイプと差別しているのではありません。女性は男性に比べて、上アゴの歯列弓も手の大きさも、平均して約10％スリムだというデータがあるのです。ですから、レギュラータイプよりもコンパクトに設計されたのが「レディ」用ということになります。

また、最近では歯石予防効果を高めるための歯ブラシや、歯槽膿漏・歯肉炎専用の歯ブラシもあります。

歯石予防効果を高める歯ブラシは、歯石のたまりやすいポイントを確実にとらえ、奥まで入りこむように、「毛先集中植毛」になっています。「段差・ナナメ植毛」で、できはじめの歯石を強力にかき落とすことができます。

歯槽膿漏・歯肉炎という、いわゆる歯周疾患のための歯ブラシは、植毛部をななめにして、すみずみまで磨けるようにした、マッサージ機能の高い設計です。

歯周疾患になりやすいのは、大臼歯部、前歯部。そこで、これらの部分をしっかり磨けるようにヘッド部はコンパクトに。さらに、軽い力でも傷んだ歯グキをマッサージできるようなハンドルになっています。

この他、義歯専用や奥歯専用の歯ブラシというのもあります。

このように、歯ブラシは目的用途別にいろいろあります。そして、改良を重ね、汚れがよくとれ、磨きやすいものがどんどん開発されています。

目的と自分の歯に合った歯ブラシを選ぶことは勿論ですが、歯ブラシだけ立派では、健康な歯は保てません。定期検診、歯ブラシの機能を活かす、あなたの正しい歯磨きあってこそ、歯を一生の友としていけるのです。

（資料提供　ライオン株式会社宣伝部）

長い間、ご愛読ありがとうございました。次号からの新企画をお楽しみに!!

＝編集部＝

ドライフードは猫にかわいそうでしょうか。

「ドライフードは味気なくてかわいそう」の声があります。固そうで、手軽すぎるからでしょうか。でも、猫の一番の不幸は好物ばかり与えられて偏食におちいり、病弱な体質になることです。健康と長寿はまず正しい食生活から。必要栄養素をバランスよく含むドライフードなら、その日から実現できます。ラブリーは、嗜好性に優れたドライタイプの総合栄養フード。歯応えのある適度の固さで、歯垢をふせぎ歯ぐきの強化も。他に用意するのは新鮮な水だけ、食費も経済的です。猫は自分で食事は選べません。健康を守る食事こそあなたの思いやりです。

ウエルネス、心とからだの健やかです。
Wellness Pet Life
Lovely

人のために創造された言葉、Wellness。ペットの健やかな暮らしを願う日清ペットフードの理念です。猫も犬も、私たち人間の仲間。喜びを分かち合う家族の一員に。ペットと人とが一体になったWellnessこそ、私たちの願いです。

ドライフードはラブリー
総合栄養フード
Lovely®

むしろこれだけでいい

日清製粉
発売元　日清ペット・フード株式会社
〒103　東京都中央区日本橋小網町19番12号　電話03-660-3755（代表）

チョコレートも生感覚・ハイテク時代です。

〈生クリームチョコ〉のV.I.P

ロッテは、独自の工夫でS・E・P（スペシャル・エマルジョン・プロセス）製法を新開発。
今まで困難とされていた、生クリームを直接チョコレートに練り込むことに成功しました。
一段とクリーミーで風味豊かな高品質チョコ——時代が求めるおいしさです。

生クリームたっぷりチョコレート
〈生クリーム〉200円

口どけスーパーチョコレート
〈スーパー生クリーム〉200円
（一部地区発売）

生感覚チョコレート
〈半生〉200円
（一部地区発売）

ロッテ V.I.P（ブイアイピー）チョコレート